時間（とき）を超えたまなざし

ー英霊の言乃葉（ことのは）ー

「平成二十七年は大東亜戦争終結七十年の節目の年。」

我が国は、敗戦という逆境から見事に復興を成し遂げ、著しい経済成長によって物質的な豊かさを手に入れましたが、急速な社会の変容の中で、伝統的に培ってきた多くの精神文化を失いつつあることも確かです。

当時、将兵として戦った方々の多くは九十代を迎えられています。我が国がなぜアメリカ、イギリスを中心とする連合国軍と戦ったのか、それはどのような戦いであったのか、後世に語れる人が少なくなってきています。

靖國神社・護国神社に祀(まつ)られる英霊(えいれい)は、いかなる覚悟で戦いに臨まれ、我が国の将来をどのように案じながら、そして最愛の家族をいかに想いながら亡くなられたのか―。

英霊に守っていただいた国に、私たちは生きているのです。

終戦七十年を機に、今日を生きる私たちが、英霊に対する慰霊(いれい)と顕彰(けんしょう)の心をもって我が国の歴史を振り返り、素晴らしい国柄を未来へ守り伝えてゆくことを考えるきっかけになれば幸いです。

ここに英霊が真心を込めて認(したた)めた遺書や手紙を紹介します。

当時の若者たちが、何を思い、何を感じていたのか―。そこから、私たちが忘れかけていた大切な何かを、きっとみつけられるはずです。

※このパンフレットに掲載する遺書・手紙は靖國神社刊『英霊の言乃葉』より転載しました。

兄は櫻の木に咲いて居る

海軍少尉　服部壽宗命
神風特別攻撃隊「菊水部隊天櫻隊」
昭和二十年四月十六日　南西諸島方面にて戦死
三重県出身

節子殿

兄は神風特別攻撃隊の一員として明日敵艦と共に、我が愛機雷撃機天山に特攻用爆弾を抱きて命中、男一匹玉と砕け散るのだ、最後にのぞみ一筆書遺し置くことあり。

節子も今では立派な可愛い女学生となつたことであらう。兄は節子の女学生姿が見られずに死んで行くのが残念だ。節子も光輝ある服部家の一女子だ。兄の一人ぐらゐが死んだとて何も悲しみなげく事はない。

兄は喜んで天皇陛下の為、重大危機に直面して居る日本の為、一億國民の楯となつて散つて行くのだ。少しも悲しまずに笑つて兄の魂を迎へて呉れ。

（中略）

兄は常に九段の社の櫻の木の枝に咲いて居る。裏の元屋敷の櫻の木にも咲きますよ。櫻が咲いたら兄だと思つて見て下さい。

さやうなら。母上を御願ひ致します。

出撃前夜　兄

親愛なる妹　節子殿

家族を想い、国を想う

出撃前夜、親愛なる妹に宛てた手紙です。「女学生姿が見られずに死んで行くのが残念だ。」自身の死と隣合せてもなお、妹の将来を案ずる、とてもやさしいお兄様の心に胸を打たれます。

また、「天皇陛下の為、重大危機に直面して居る日本の為、一億國民の楯となつて散つて行くのだ。」と家族への愛情を絶つて国や多くの人々を守ってみせる、という並々ならぬ覚悟を感じます。

しかし、「櫻が咲いたら兄だと思つて見て下さい。」「母上を御願ひ致します。」と最後まで家族を気遣う気持ちは忘れません。「九段の社の櫻の木」と「裏（みたま）の元屋敷の櫻の木」に咲くお兄様の御霊が、私たちに語りかけてくるようです。

笑って護国の花と散ります

陸軍上等兵　髙山晴次命
昭和十七年三月七日　ビルマ国ベグーにて戦死
香川県小豆郡四海村出身　二十四歳

母上様。長らく御世話に成りました。

此の二十一年間、何一つ喜ばし、又、安心させた事もなく、只御心配ばかり掛けまして誠に申訳御座居ませんが、日本男子と生れて国防の第一線に立ち、男として一花咲かせます。東洋永遠平和の為、散らして行きます。此れ日本男子の本懐で有ります。

すでに母上様も入営当初より御覚悟は出来て居る事と思ひますれば、私も何一つ思ひ残す事なく、笑って護国の花と散ります。

なほ、もし私の骨が帰ったなれば只一言、よく死んで呉れた。あっぱれと褒めて下されば、なほ嬉しく思ひます。

私の石碑は、ほんの印（しるし）だけで結構です。故、残金は全部国防献金して下さい。（中略）

茂君も丈夫で、立派な帝国海軍軍人と成って、海に活躍せられん事を祈る。孝江も真面目に働いて良き夫に付き、幸福に暮らされん事を草葉の陰より祈る。

又、兄上様一同に色々と心配を掛けた晴も、だうやら一人前の日本男子と成った様です。

私も此れに越したる喜びは有りません。

だうか母上様をよろしく御頼み致します。（後略）

晴　次

母兄弟妹様

平和を守る

我が国はなぜ大東亜戦争を戦ったのでしょうか。多くの検証が重ねられていますが、なお様々な意見に分かれます。

当時の若者は、国を守り、アジア諸国の平和のために戦うのだという思いを胸に戦陣に向かいました。「日本男子と生れて国防の第一線に立ち、男として一花咲かせます。東洋永遠平和の為、散らして行きます。此れ日本男子の本懐で有ります。」

国防のため、東洋平和のために戦うのだという当時の人々の覚悟を、私たちは真摯に受け止めなければなりません。終戦の後に訪れた70年に及ぶ「平和」は、英霊が守り抜こうとされたものだからです。私たちはその純真なる気持ちを受け継いでいるでしょうか…。

出陣に際して

海軍大尉　塚本太郎命
昭和二十年一月二十一日　中部太平洋方面にて戦死
茨城県稲敷郡龍ヶ崎町出身　二十二歳

父よ、母よ、弟よ、妹よ、そして永い間はぐくんでくれた町よ、学校よ、さやうなら。
本当にありがたう。こんな我ままものを、よくもまあほんとうにありがたう。僕はもっと、もっと、いつまでも皆と一緒に楽しく暮らしたいんだ。愉快に勉強し皆にうんとご恩返しをしなければならないんだ。春は春風が都の空におどり、みんなと川辺に遊んだっけ、夏は氏神様のお祭りだ。神楽ばやしがあふれてる。昔はなつかしいよ。秋になれば、お月見だといってあの崖下に「すすき」を取りにいったね。あそこで、転んだのはだれだったかしら。雪が降り出すとみんな大喜びで外へ出て雪合戦だ。昔はなつかしいよなあ。かうやって皆と愉快にいつまでも暮らしたい。喧嘩したり争ったりしても心の中ではいつでも手を握りあって　――　然しぼくはこんなにも幸福な家族の一員である前に、日本人であることを忘れてはならないと思ふんだ。
日本人、日本人、自分の血の中には三千年の間、受け継がれてきた先祖の息吹きが脈打ってるんだ。
（中略）
至尊の御命令である日本人の血が湧く。永遠に栄あれ祖国日本。
みなさんさやうなら　――　元気で征きます。
昭和十八年十二月十日

日本人として

楽しかった少年時代の思い出。「かうやって皆と愉快にいつまでも暮らしたい。」素直なお気持ちが汲みとれます。しかし私的な追憶を捨てて「日本人」であることを忘れてはならないと綴られます。

「日本人、日本人、自分の血の中には三千年の間、受け継がれてきた先祖の息吹きが脈打ってるんだ。」私たちは長い歴史の中で、祖先から脈々と続く生命を受けて生きています。その多くの祖先の生命によって築かれた日本の国を守ること。懐かしい思い出を胸に、家族や故郷へ「本当にありがたう。」と感謝の心で綴られた一文に、私たちにも受け継がれている「日本人の血」を感じませんか。

遺書

海軍大尉　小野寺徳治命
昭和二十年六月十三日　沖縄島方面にて戦死
宮城県栗原郡有賀村出身　三十九歳

日本に　生を禀（うけ）し　男子が
御盾となりて　散るぞ嬉しき

生ある者は必ず死す。国難に殉ずるは男子の本懐、之に過ぐるなし。喜んで殉ず。
軍人の妻として、今日あるを覚悟し、決して取乱すべ可らず。
余の亡き後は軍人の妻として、恥かしからざる生活をせよ。
博重は、必ず海陸軍人と致す様、養育すべし。
浩子は、婦女子として恥かしからざる教育を致させ、良縁があったら嫁（とつ）がすべし。
御腹の子供が男子であったら、博重と同様軍人に致し、女子の場合、浩子同様嫁がすべし。
余の亡き後は、速やかに帰郷致し、養父母に孝養を尽すべし。
決して世間の人様から後指を指されない様、心得る可し。
余の肉体は滅す共、精神は護国の鬼と化して朝敵を亡ぼす。
浮世の荒波に打ち勝って、子供の教育に専心すべし。
御前達の幸福を見守る。
右、遺言す。
昭和十五年十一月二十九日

悦子殿

徳治

公（おおやけ）のために 国のために

「国難に殉ずるは男子の本懐」。現代の私たちには重い言葉に感じます。当時の若者は、愛する家族を、懐かしい郷土を、そして素晴らしい祖国を守るために意を決して立ち上がりました。

「日本（ひのもと）に　生を禀（うけ）し　男子（ますらを）が　御盾（みたて）となりて　散るぞ嬉しき」

「国難に殉ずるは男子の本懐、之に過ぐるなし。喜んで殉ず。」

日本人として、祖先から受け継いだ歴史と伝統ある祖国を守るため、覚悟を決めて公（おおやけ）のため、国のために戦いに臨んでいったのです。

英霊に守っていただいた国に私たちは生きているのです。

妹への便り

海軍二等整備兵曹　宗像富男命
昭和十九年二月六日　南洋群島にて戦死
福島県石川郡蓬田村出身　二十四歳

喜久ちゃん、しばらく。御無沙汰しましてすみません。
私もます〳〵元気で御国の為に働いてゐますが、
喜久ちゃんは元気ですか。
さうして毎日学校に通ってゐますか？
月日の経つのは早いものですね。御別れしてから早二年。
その間によく先生の言ふ事、御父さん御母さんの言ふ事を
聞いて立派に、そして大きくなったでせう。
あへるものだったら本当に逢ひたいです。
今はいそがしいから学校から帰ると子守でせう。
でも子守をしながらでも良く勉強しなくてはだめですよ。
コウちゃんも元気でせう。
みんな仲良く暮しなさいね。
では又、何時れ。

家族への愛

おそらくは、遠い戦地から祖国の家族を気遣って書かれた手紙でしょう。

「御別れしてから早二年…そして大きくなったでせう。あへるものだったら本当に逢ひたいです。」
遠く離れた最愛の妹に一目会いたいという正直な気持ちが伝わってきます。

しかし、戦地に赴いた以上、「ますます元気で御国の為に働いてゐます」と告げ、愛する家族や、誇りある祖国を守り抜くために使命を全うしてゆこうとしています。

「では又、何時れ。」その情愛は永遠に家族のもとに注がれています。

遺書

陸軍兵長　安田　博命
昭和二十年七月一日　比島レイテ島カンギポット山にて戦死
茨城県結城郡石下町出身　二十四歳

御両親様。
貳拾有余年の長年月、御世話にのみ相成りました。
博は今、大東亜建設の礎石として、命を君国に捧げます。
何等孝養とて尽さぬ事多く、先立つ不孝の罪を御許し下さい。
但し、軍籍に身を投じたからには、自分としては今日の事は、既に覚悟の上であります。
御両親様、博の戦死を聞いても、決して御嘆き下さいますな。
世間にはまだ〳〵不幸な境遇の人達が、どの位あるか判りません。
そして、まさ子や悦子の事は、呉々も宜敷く御願ひ致します。
博は決して卑怯な死に方はせぬ積りですから、それのみは固く信じて下さい。
では、桜咲く靖國での対面を胸に従容として、祖国に一命を捧げます。
親戚、近所へ宜敷く願ひます。

御両親様　　博

親子の絆

先の大戦は、多くの親子や家族を引き離しました。

「御両親様。貳拾有余年の長年月、御世話にのみ相成りました。」

「何等孝養とて尽さぬ事多く、先立つ不孝の罪を御許し下さい。」
親への深い感謝を抱きつつ戦場に立つ子の気持ちに、親子の深い絆を感じずにはいられません。

「戦死を聞いても、決して御嘆き下さいますな。」様々な感情を乗り越えて、親に向けた精一杯の言葉です。

家族と毎日顔を合わせ、何でも打ち明けることの出来る幸せ―。

私たちは、何でも「あたりまえ」の世の中に生きているのかもしれません。自分を生み育ててくれた親への感謝の念を、いつまでも大切にしたいものです。

靖國神社で会ひませう

海軍少尉　松尾　勲命
昭和十九年十月二十七日　比島方面にて戦死
長崎県南高来郡愛野町出身　二十四歳

咲くもよし　散るも又よし　桜花

父母上様、喜んで下さい。勲はいゝ立派な死場所を得ました。今日は最後の日です。皇国の興廃此の一戦に在り。大東亜決戦の南海の空の花と散ります。

大君の御楯となって分隊長を初め、共に潔く死につき七度生れかはり宿敵米英を撃滅せん。あゝ男子の本懐是に過ぎるものが又とありませう。（中略）

二十三年の幾星霜良く育てゝ下さいました。厚く〳〵御礼申し上げます。

今度がその御恩返しです。勲はよくも立派に皇国の為に死んでくれたとほめてやって下さい。ほんとに兄弟の中で私は一番幸せ者でした。喜んで居ります。弟も立派な軍人として御奉公出来る様にして下さい。お願ひします。もう何も思ひ残す事はありません。

父母上様、今度白木の箱でかへります。靖國神社で会ひませう。長い間有難うございました。（中略）

父上様
母上様

勲

先人のまなざしを感じる

靖國神社には、二百四十六万六千余柱の御祭神がお祀りされています。

今日の「平和」は、我が国が国家存亡の危機に直面した際に、国の将来を信じて戦陣に赴き、尊い命を捧げられた多くの方々のおかげで成り立っているのです。

そのような背景があって今日の我が国があり、私たちがいるということを、決して忘れてはなりません。

「魂は永遠に生きる」。御祭神は時を超えた今日も、常に私たちの幸せや国家の繁栄を祈り、見守り続けて下さっています。

英霊の言の葉を真摯に受け止め、未来に語り継いでゆくこと。それは、平和を護る心を伝えていくことでもあるでしょう。

英霊に感謝の心を捧げましょう

靖國神社及び護国神社は、幕末維新以来、日清戦争や日露戦争、大東亜戦争などの国難に際して、我が国のために尽くし、尊い命を捧げられた方々の御霊をお祀りする神社です。

靖國神社は御創建以来、我が国の戦歿者慰霊顕彰の中心的施設として、毎年多くの参拝者が訪れています。

また、みなさんがお住まいの地域に鎮座する護国神社は、その郷土の出身者または縁のある方々をお祀りし、御祭神は、そこに暮らす人々を、日々あたたかく見守って下さっています。

今日、私たちの生活があるのは、靖國神社・護国神社の御祭神のおかげです。その遺徳を称え、感謝の心をもって、御神前で心静かに手を合わせましょう。

靖國神社・護国神社所在地一覧

靖國神社　東京都千代田区九段北3−1−1

函館護国神社
北海道函館市青柳町9−23

札幌護國神社
北海道札幌市中央区南15条西5−1−3

北海道護国神社
旭川市花咲町1−2282−2

福島縣護國神社
福島市駒山1

宮城縣護國神社
仙台市青葉区川内1

山形県護国神社
山形市薬師町2−8−75

岩手護國神社
盛岡市八幡町13−2

秋田県護国神社
秋田市寺内大畑5−3

青森縣護國神社
弘前市下白銀町1−3

千葉縣護國神社
千葉市中央区弁天3−16−1

埼玉県護國神社
さいたま市大宮区高鼻町3−149

群馬縣護國神社
高崎市乗附町2000

栃木県護国神社
宇都宮市陽西町1−37

茨城県護国神社
水戸市見川1−2−1

山梨縣護國神社
甲府市岩窪町608

静岡縣護國神社
静岡市葵区柚木366

愛知縣護國神社
名古屋市中区三の丸1−7−3

岐阜護國神社
岐阜市御手洗393

濃飛護國神社
岐阜県大垣市郭町2−55

飛騨護國神社
岐阜県高山市堀端町90

長野縣護國神社
松本市美須々6−1

三重縣護國神社
津市広明町387

新潟縣護國神社
新潟市中央区西船見町5932−300

富山縣護國神社
富山市磯部町1−1

石川護國神社
金沢市石引4−18−1

福井縣護國神社
福井市大宮2−13−8

滋賀縣護國神社
彦根市尾末町1−59

京都靈山護国神社
京都市東山区清閑寺霊山町1

大阪護國神社
大阪市住之江区南加賀屋1−1−77

兵庫県神戸護国神社
神戸市灘区篠原北町4−5−1

兵庫縣姫路護國神社
姫路市本町118

奈良縣護国神社
奈良市古市町1984

和歌山県護国神社
和歌山市1番丁3

岡山縣護國神社
岡山市中区奥市3−21

備後護國神社
広島県福山市丸之内1−9−1

広島護國神社
広島市中区基町21−2

山口縣護國神社
山口市平野2−2−1

松江護國神社
島根県松江市殿町1−15

濱田護國神社
島根県浜田市殿町123−10

鳥取県護国神社
鳥取市浜坂1318−53

徳島県護国神社
徳島市雑賀町東開21−1

香川県護国神社
善通寺市文京町4−5−5

愛媛縣護國神社
松山市御幸1−476

高知県護国神社
高知市吸江213

福岡県護国神社
福岡市中央区六本松1−1−1

佐賀縣護國神社
佐賀市川原町8−15

大分縣護國神社
大分市大字牧1371

熊本縣護國神社
熊本市中央区宮内3−1

宮崎県護國神社
宮崎市神宮2−4−3

長崎県護国神社
長崎市城栄町41−67

鹿児島県護國神社
鹿児島市草牟田2−60−7

沖縄県護国神社
那覇市奥武山町44

※全国護國神社會提供

神社本庁

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-1-2
TEL.03-3379-8011　FAX.03-3379-8299　http://jinjahoncho.or.jp

発行　平成26年12月1日